

劇薬  
処方箋医薬品<sup>注</sup>

日本薬局方

# ドパミン塩酸塩注射液

## DOPAMINE HYDROCHLORIDE INJECTION

ドパミン塩酸塩点滴静注 50mg「アイロム」

ドパミン塩酸塩点滴静注 200mg「アイロム」

	50mg	200mg
承認番号	22300AMX00026	22300AMX00027
薬価収載	2011年1月	
販売開始	2011年6月	

貯 法：室温保存  
使用期限：ラベル及び外箱に表示  
注）注意－医師等の処方箋により使用すること

### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

褐色細胞腫 [カテコールアミンを過剰に産生する腫瘍であるため、症状が悪化するおそれがある。]

### 【組成・性状】

#### 1. 組成

本剤は1管（2.5mL、10mL）中に下記成分を含む。

	ドパミン塩酸塩 点滴静注50mg 「アイロム」	ドパミン塩酸塩 点滴静注200mg 「アイロム」
容量	2.5mL	10mL
有効成分	ドパミン塩酸塩 50mg	ドパミン塩酸塩 200mg
添加物	亜硫酸水素ナトリウム 2.5mg	10mg

#### 2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の水性注射液で、pH及び浸透圧比は次のとおりである。

pH	3.0～5.0
浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	0.6～0.8

### 【効能又は効果】

急性循環不全（心原性ショック、出血性ショック）  
下記のような急性循環不全状態に使用する。

- 無尿、乏尿や利尿剤で利尿が得られない状態
- 脈拍数の増加した状態
- 他の強心・昇圧剤により副作用が認められたり、好ましい反応が得られない状態

### 【用法及び用量】

通常ドパミン塩酸塩として1分間あたり1～5 $\mu$ g/kgを点滴静脈投与し、患者の病態に応じ20 $\mu$ g/kgまで増量することができる。

必要に応じて日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液、ブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等で希釈する。

投与量は患者の血圧、脈拍数および尿量により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 末梢血管障害のある患者（糖尿病、アルコール中毒、凍傷、動脈硬化症、レイノー症候群、バージャー病等） [末梢血管収縮作用により症状が悪化するおそれがある。]
- 未治療の頻脈性不整脈又は心室細動の患者 [陽性変時作用により症状が悪化するおそれがある。]

#### 2. 重要な基本的注意

- それぞれのショック状態において必要に応じ最初に輸液、輸血、呼吸管理、ステロイド投与等の処置を考慮する。
- 血圧、脈拍数及び尿量等、患者の状態を観察しながら投与する。
- 大量投与したとき、脈拍数の増加がみられた場合や尿量の増加がみられない場合には本剤を減量するか中止する。

#### 3. 相互作用

##### 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノチアジン誘導体 プロクロルペラジン等 ブチロフェノン誘導体 ドロペリドール等	本剤の腎動脈血流増加等の作用が減弱することがある。	左記の薬剤はドパミン受容体遮断作用を有する。
モノアミン酸化酵素阻害剤	本剤の作用が増強かつ延長することがある。	本剤の代謝が阻害される。
ハロゲン化炭化水素系麻酔剤 ハロタン等	頻脈、心室細動等の不整脈を起こすおそれがある。	左記の麻酔剤により、本剤の感受性が高まる。

#### 4. 副作用

本剤は副作用の内容及び頻度が明確となる調査を実施していないため、副作用については同一成分薬を参考に記載した。

##### (1) 重大な副作用（頻度不明）

- 麻痺性イレウスがあらわれることがある。
- 末梢血管の収縮により四肢冷感等の末梢の虚血が起り、壊疽を生じることもあるので、四肢の色や温度を十分に観察し、変化があらわれた場合には投与を中止し、必要があれば $\alpha$ -遮断剤を静脈内投与する。

##### (2) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
循環器	頻脈、不整脈（心室性期外収縮、心房細動、心室性頻拍等） <sup>※</sup> 、動悸

（裏面へつづく）

	頻度不明
消化器	嘔気、嘔吐、腹部膨満、腹痛
その他	静脈炎、注射部位の変性壊死、起毛

注) 不整脈が発現した場合には、抗不整脈剤を投与するか本剤の投与を中止すること。

#### 5. 高齢者への投与

高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用があらわれやすいので、少量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

#### 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

#### 7. 過量投与

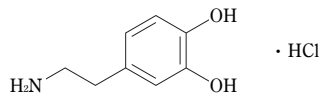
誤って過量投与した場合には、患者の状態が安定するまで投与速度を落とすか一時的に投与を中止する。必要な場合には $\alpha$ -遮断剤の投与等適切な処置を行う。

#### 8. 適用上の注意

- (1) 投与時：血管外へ漏れた場合、注射部位を中心に硬結、又は壊死を起こすことがあるので、できるだけ太い静脈を確保するなど慎重に投与すること。
- (2) 調製時：
  - 1) pH8.0以上になると着色することがあるので、重曹のようなアルカリ性薬剤と混合しないこと。
  - 2) 希釈溶液として日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液、ブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等がある。
  - 3) 本品は一点カットアンプルを使用しているので、アンプルカット時にはヤスリを用いず、アンプル頭部のマークが真上にくるように持ち、反対側へ折ること。なお、カット時に異物混入を避けるため、カット部分をエタノール綿等で清拭し、カットすることが望ましい。

#### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ドパミン塩酸塩 (Dopamine Hydrochloride)  
 化学名：4-(2-Aminoethyl)benzene-1,2-diol monohydrochloride  
 構造式：



分子式：C<sub>8</sub>H<sub>11</sub>NO<sub>2</sub>・HCl

分子量：189.64

融点：約248℃（分解）

性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末である。

本品は水又はギ酸に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくい。

#### 【取扱い上の注意】

#### 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヶ月）の結果、ドパミン塩酸塩点滴静注50mg「アイロム」とドパミン塩酸塩点滴静注200mg「アイロム」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。<sup>1)</sup>

#### 【包装】

ドパミン塩酸塩点滴静注50mg「アイロム」2.5mL×10管  
 ドパミン塩酸塩点滴静注200mg「アイロム」10mL×10管

#### \*【主要文献及び文献請求先】

\*〈主要文献〉

- 1) 共和クリティケア社内資料：安定性試験（2009）

\*〈文献請求先〉

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

共和クリティケア株式会社 学術情報課  
 〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-8

TEL 0120-265-321

FAX 03-5840-5145

\*共和クリティケア株式会社

神奈川県厚木市旭町四丁目18番29号